

経営比較分析表（令和3年度決算）

兵庫県芦屋市 芦屋病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	ド訓	救臨輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
95,430	17,045	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

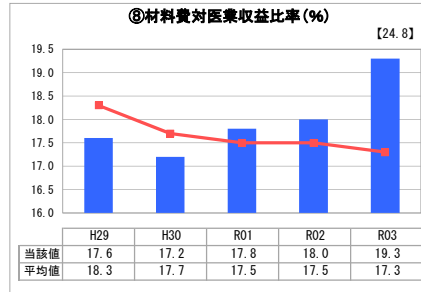
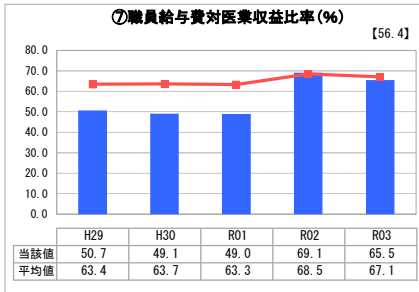
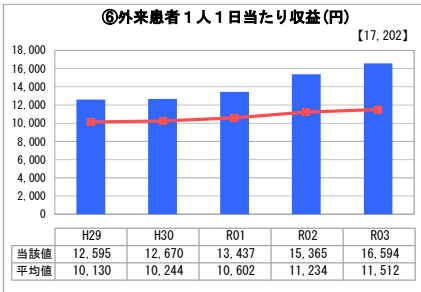
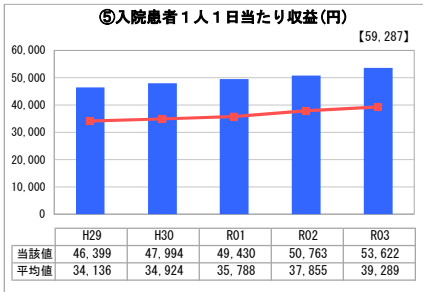
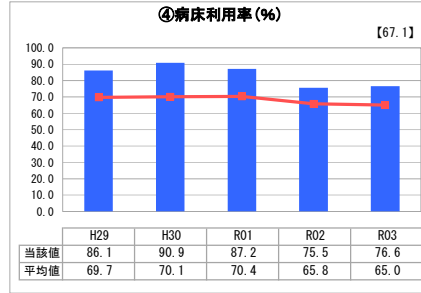
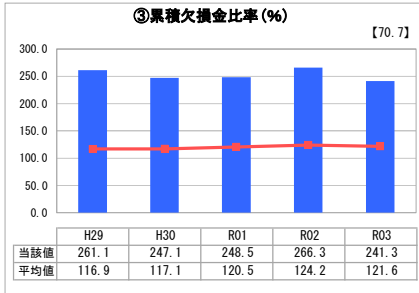
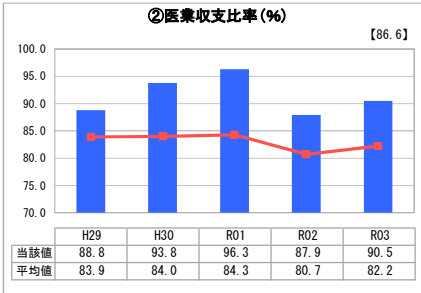
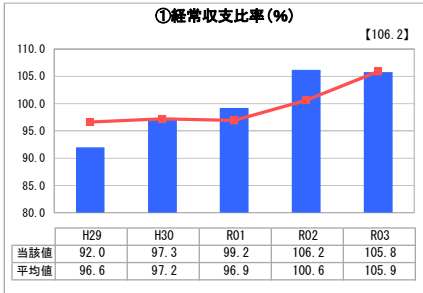
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
198	-	198

グラフ凡例

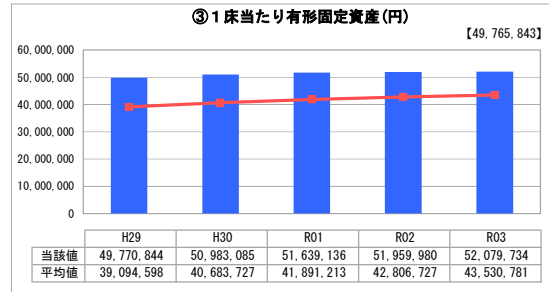
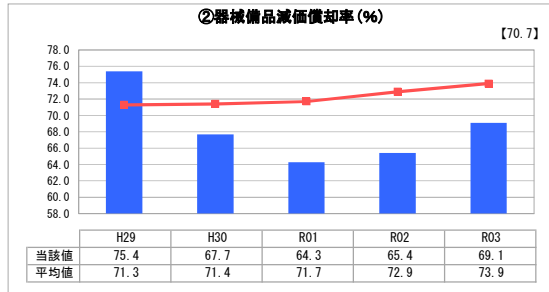
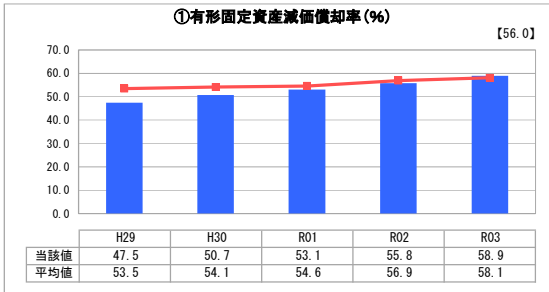
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は市民の健康保持に必要な医療を提供する市の中核医療機関として、地域の診療所等との役割分担と連携により、救急医療を含め診療体制の充実を図っている。

特に今後も増加が見込まれるがん診療への取組（緩和ケア含む）、認知症併患者への対応、心不全患者への対応、各種検診の推進に努めている。さらに、地域の後方支援病院として、在宅患者急変時の受入医療機関としての役割を果たしており、療養後は住み慣れた自宅へ早期に復帰できるように在宅復帰支援への取組にも注力している。

新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関として治療にあたる他、感染対策に関し市内医療機関等に協力している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

前年度に比べ入院・外来患者数及び診療単価がともに増加したことにより、医業収益が増加した。
研修医等の増加による給与費の増加、難治性疾患患者に対する高額薬品の使用量増加による材料費の増加により総費用も増加した。

新型コロナウイルス感染症患者受入病床拡充のため、一部の病床を新型コロナウイルス感染症専用病床へ転換し、一部の病床を空床で運用するなど、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は免れないものの、入院・外来患者数の増加及び新型コロナウイルス感染症関連補助金により、純損益は黒字となり、前年度に引き続き長期借入を行うことなく病院運営を行うことができた。

累積欠損金比率については、依然として高比率であり、継続的な改革の取組を実践することで、当該比率の減少が求められる状況。

2. 老朽化の状況について

平成24年度の新病棟の改築工事により、有形固定資産減価償却率は、類似病院よりも低い水準となっているが増加傾向にあります。

器械備品減価償却率については、徐々に回復傾向にあるものの、高額医療機器の更新時期が続くことが予定されており、本年度においても内視鏡システムなどの医療機器の更新を行ったことで、全国平均・類似病院を下回る水準となりました。

全体総括

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから市民の命と健康を守るため、市の中核病院として求められる新型コロナウイルス感染症への対応に取り組むと共に、院内感染対策を講じながら通常通りの入院・外来診療機能の継続にも努めた。

経営状況については、徐々に入院・外来患者数が回復しており、補助金等も併せて黒字となった。令和4年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい経営状況が予測されるが、新たな計画目標の達成に向け、引き続き経営改革と収支改善に努める。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。